

世界を救った
勇者のパーティーだけど
ゴブリンに寝取られます

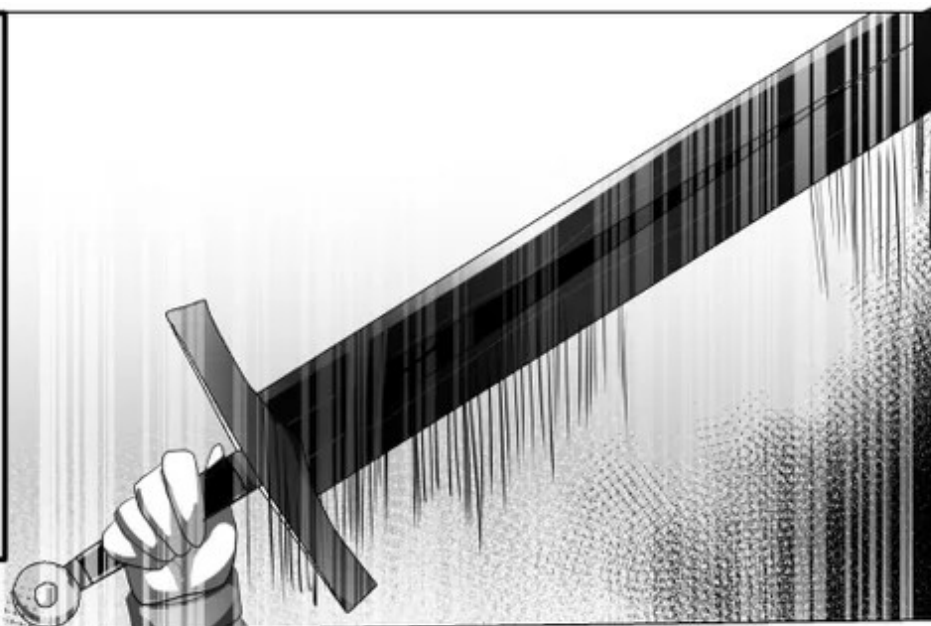
女戦士編

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

魔物達の主
魔王を討ち滅ぼした
勇者とその仲間たち

新たな英雄の
誕生は新たな国
新たな王の誕生を
意味していた



勇者は信頼できる
仲間たちを妻に迎え

新たな国の基盤を
築くため各地に
派遣したのだった



しかし勇者達は
知らなかった……

というより人間の
常識では思いもよ
らなかった

魔王とは位
にはあらず

耐える事なく
存在し続ける
力だということを……

ゴウ
ゴウゴウ



よし今日の
調練はここまで！

妃様自ら調練とは
頭が下がります…

おおう！
お疲れさん！

なに、一日中
机で書類仕事より
私はこっちの方が
性に合っている

それに妃様なんて
むず痒い戦士で
かまわないぞ

ありがとうございました！

そんな…
とんでもございません

明日もよろしく
お願いいたします！

元女戦士
英雄王第四妃
現・魔界国境軍 大將

ふー調練なんか
よりいつも気の方が
疲れちまうよ……

まあこれも中央で
頑張ってる勇者の
ためか……

んっ？

誰だ!?

キキキ……

ん？ゴブリン……？

ズ
ズ
ズ

ゲ
ゲ
ゲ

キキキ……
どうも初めまして
戦士さん

貴様、どうやって兵の
警備を潜り抜けた？

ただのゴブリンに
できる芸当じゃない……

しゃべるゴブリン……？
こいつかなり知能が
高いと見えるな……

ならば！

下手な小細工をする
前に叩き潰させて

もらーっ!?

キキキ……
やれやれ……
人間はいつだって
すぐに調子にのるな

お前たち人間は
群れでないととても
脆い存在だ……

こいつ……精神操作系の
魔法を……!!

女戦士……

腕っぷしは世界有数だが
魔法関係はカラキシだな……？

まずい、ここまでの高レベルの魔法を使うモンスターがこんな最前線に来るとわ……

今ここにはこのレベルの魔法は防げる術師はいない……

そんなに冷たくしないでおくれよ

人間は我々魔物と戦争はしているが

私は君の味方だ

ほごくな……
ゴブリンふぜいが……

ふーむ私はぜひ君のように強い人間と仲良くなりたいと思って
いるのだが……

こう取りつく島もないので
有れば仕方がない……

私は魔法は強いが
流石にこの拠点
全ての兵士を一人で
相手にするには

すこし魔力が足りない



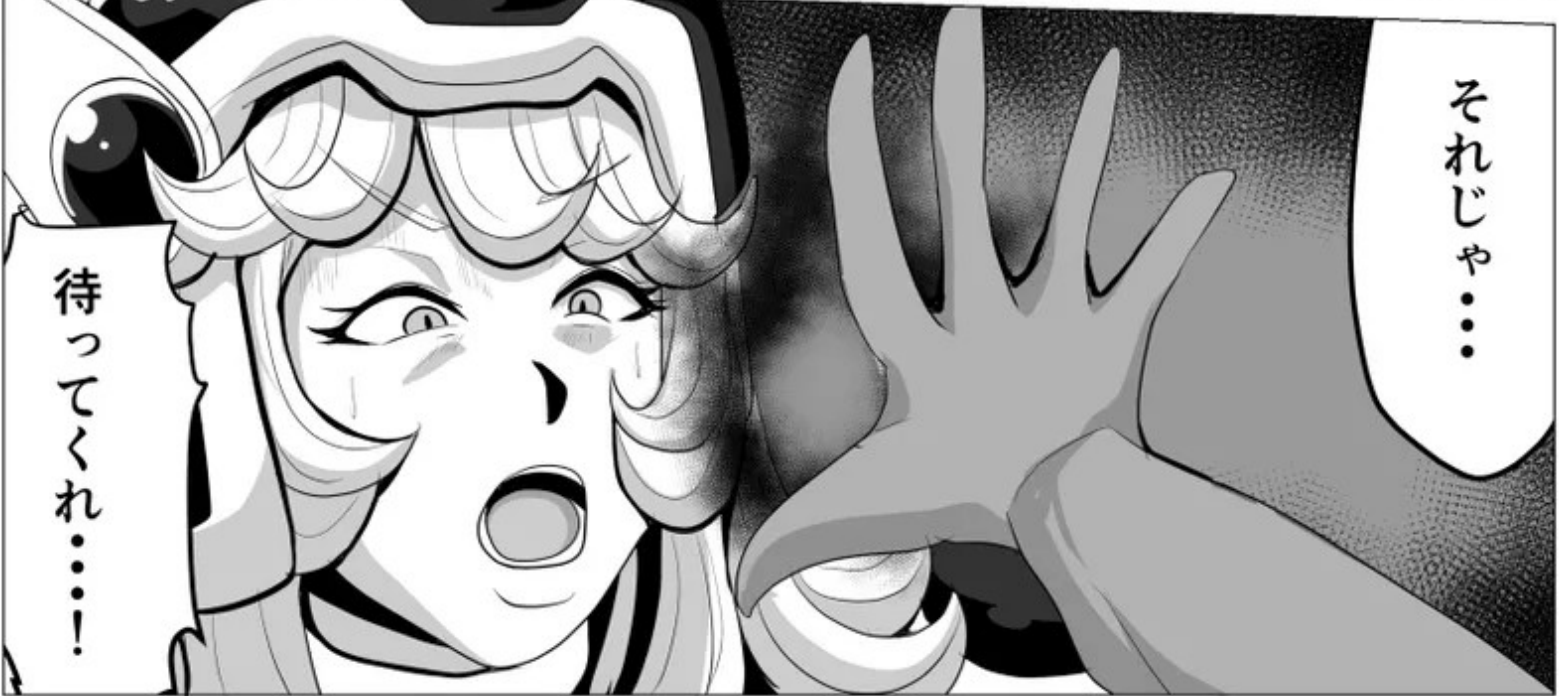
ここは君を操って
兵士達を皆殺しに
してもらおうかな？

君の戦闘力なら
容易いだろう？



英雄のパーティー
女戦士さん……？

な……につ……



それじゃ……

待ってくれ……！

わかった……

仲良くでも
なんでもするから……

グッ

それだけは
許してくれ……

今は従い
油断をして

魔法が弱まる
隙を突くしかない……

それは実に
嬉しいな

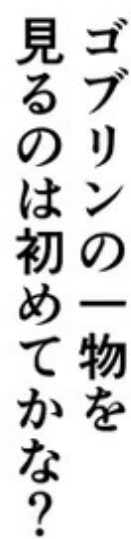
ニタ

むち♡

それじゃあ
お近づきの印に

ゴブリン流の
親愛の儀式を
執り行おうか

うん♡



人間のとはすこし
違うだろう？

ぴく



安心してまえ
きつと楽しんで
もらえるからね

ひく...

17



おや、あまり慣れていないようだね

大丈夫だ
すぐに気持ちよく
なつてこれじゃないと
ダメになつてしまうから



いい声を
出すじゃないか

とても可愛いよ

そんなこと
言われても……
嬉しくない……

なんか……
でてる……

こいつまさか……

ふふふ大丈夫
これは精液では
ないよ

実はゴブリンには
メスがいなくてね

器官が似ている
人間のメスを孕ませて
種を増やしていくんだ

その前段階として
人間をゴブリン種に
変える必要がある

それって…

く…

ぞ

まさか…

言っただろ？
親愛の儀式だ…

ひひ…

女戦士…
今日から君も
我々の仲間だ♥

身体がおかー!?

びびん

シャ

パ

いんいんいん
あ

びん

ずん

びん

かわいそうにもう少し
性体験が豊富であれば
苦しみなく改変できたんだが

勇者に可愛がられて
いなかったんだね…

君のように常に
最前線で戦って
勇者を守ってきた者が

愛されることなく
こんな果てに打ち捨て
られているとは不憫で
ならないよ…

っそんなこと…

さあこれからが
本番だ

まっ…

あー

パンシュ

んあー

ぴゅー

ぴゅー

んあー

んあー

ガク

あー

びく

あー



私の仲間に
さえなってくればね

ぴた...
ぴた...

そっそへはあ...

私は君のように
強い存在を愛している

決して寂しい思いは
させたりしない

君は私の宝だ...

勇者にも言われたこと
のない甘い台詞を
ささやかれ

私はこの魔物に対して
安心や尊敬のような
感情が生まれている
ことを感じた...

ぽた...
ぴた...

ぴくっ

さあ私とつがいと
なろう……



聞かせておくれ
君の本当の声を？

なっ

なります……♡

何に？

貴方様とつがい……

私を愛しているかい？

あゝ

勇者よりも？

はっ♡

はいいい♡

私の全ては
あなたのものです♡

愛しています♡





おほっ
くくく

イク
くくく
はらみ
くくく

びく
くくく

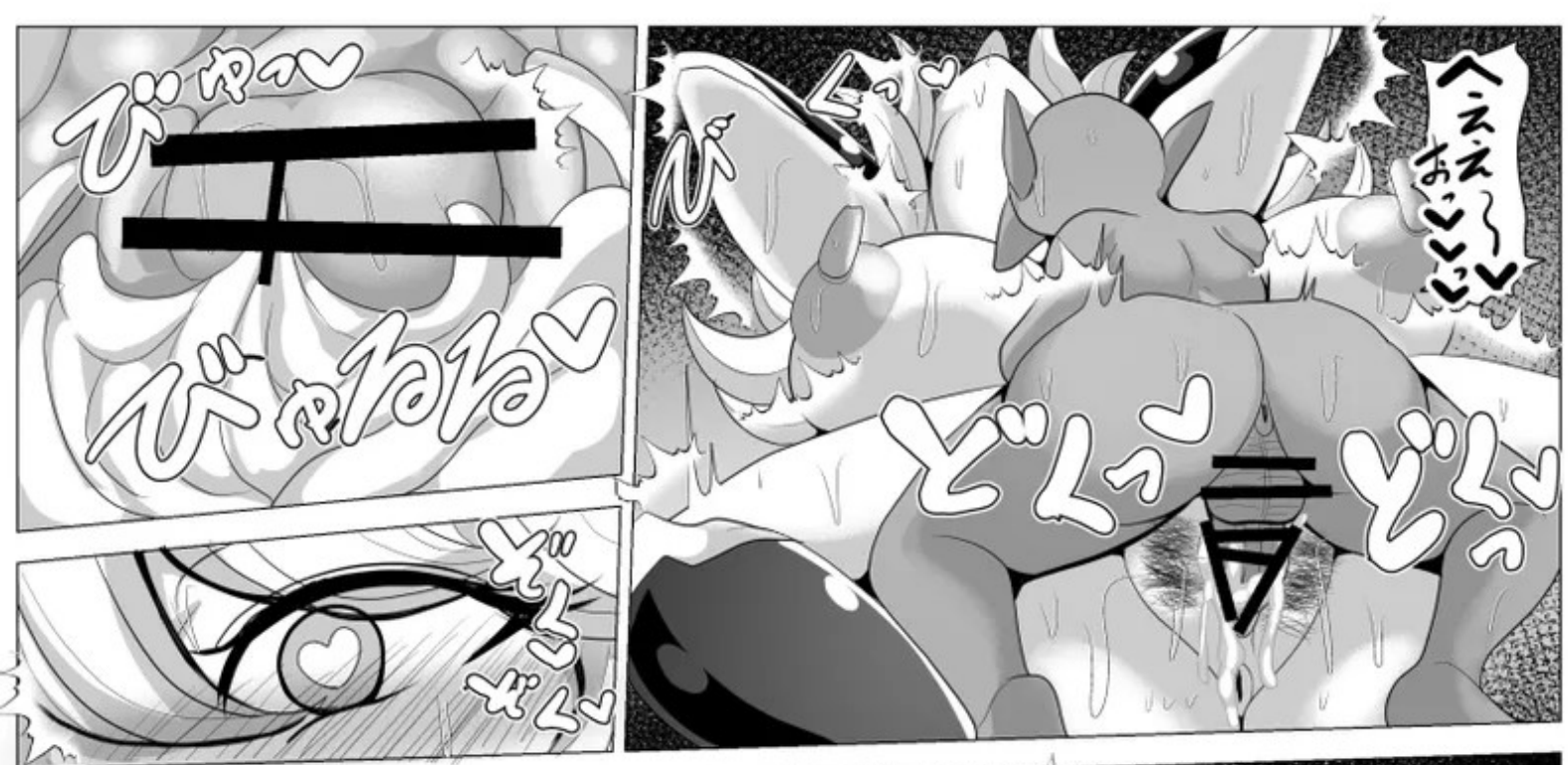
びく
くくく

びく
くくく

びや
くくく

びや
くくく

くく
くくく



それから先はあまり
記憶が残っていない

びゅん
すーん

あええ

びゅん
びゅん

ぱん
ぱん
ぱん

何度も何度も
身体を重ね……

私は短い間に
何度もゴブリンの
子供を産み落とした

ぱん

ぱん

ぱん

ズポ

私が産み落とした
子供たちはすぐに
大きく育ち

その子供たちが
私の異変に気がついた
兵士たちを葬ったところ

私は私の御主人様が
新たな魔王であることを
知ったのだった

ドキ

ドキ

フポ



数日後

魔王様…

また次の子が
生まれそうですわ

そうかそうか

子供達は君の力を
引き継いで非常に
強い戦士に育って
いるからね

これからも
どんどん私の
子を孕んでおくれ

はい♡
魔王様♡

フポ♡

フポ♡

